

M S R - 2 1 - 0 5 5 R 3

2 0 2 1 年 1 0 月 2 0 日

三 菱 原 子 燃 料 株 式 会 社

設工認申請における追加の軽微変更について

1. はじめに

設工認申請において、検査に必要な情報が適切に記載されているかの観点で総点検を行った結果並びに設工認申請書に対して変更が必要となる項目は、MSR-21-044改訂1、MSR-21-047改訂2で報告している。さらに、設工認申請書の修正が必要との考えに至ったものが発生したため、変更内容とその影響について確認した。

2. 軽微変更について

(1) シャッタスラット材

シャッタは主にスラットと両サイドのレールで構成されるが、MSR-21-047改訂2の中で、シャッタについては、『主要な構造材の仕様表』に記載する代表部材として、材質はレールの部材、板厚は、スラット部を示すことがわかるように記載を軽微変更した。

しかし、板厚の代表部としては、シャッタのスラットの板厚を記載していることを考慮すると、レール材との区別を明確にするため材質についても記載すべきであるとの考えに至り、設工認の主要な構造材としてシャッタのスラットの材質を記載することとした。

シャッタの材質としてレール部の材質である[]の記載としていたが、上記より板厚と合わせて、スラット材質も明確に記載することとした。

(詳細は資料1)

特に、火災に関する添付説明書での説明内容と照合し、シャッタの中でも評価対象となるスラット部の材質を明記することが望ましいとの判断に至った。この経緯について、資料1添付3に示す。

なお、交換ないしは新設の対象となるシャッタのスラット材質は[]
[]: JIS G 3302) である。

(2) 4次申請 放射線管理棟前室の貫通部(火災区域図の表記)

壁の貫通部については、延焼防止の観点から耐火シールを施すことが要求されている。この新規制基準において耐火性に関する貫通部の要求が満足されていることを確認すべく、貫通部の検査として、貫通部に耐火シールが施工されていることを確認する。貫通部の検査にあたり、火災区域を構成する壁(以降、耐火壁と称す)を明確にする必要

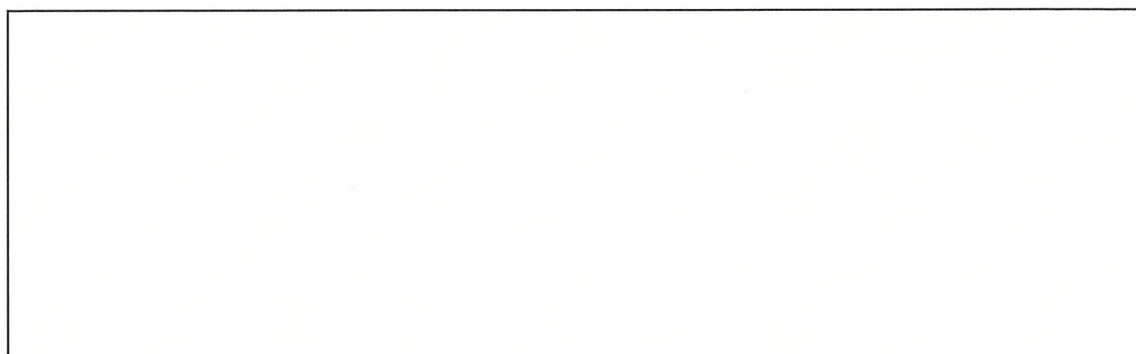
がある。耐火壁に対する貫通部の位置については、設工認申請時点では耐火壁に対する概略位置として印（●：配線貫通部、■：配線及び配管貫通部）を記載している。この印は次の基準に従って付けることとしている。

- ・ 火災区域境界を構成する新設壁であること
- ・ 概略の位置がわかるようにすること。

今回、上記の基準に従い、確認したところ、4次申請 放射線管理棟前室の貫通部（火災区域図の表記）を正確に記載することが必要と判断し、4次申請書の図イ建-6の火災区域を示す図の一部を変更することとした。また、今回の工事に関連して工事を実施する既設壁（廃棄物一時貯蔵所側の壁）についても併せて印を打つこととした。

壁貫通部の施工について、貫通部を示す施工図面と設工認図面の照合を行ったが、設工認図は廃棄物一時貯蔵所から放射線管理棟前室に至る貫通部が存在することを概略で示しているものであるため、施工図面の承認プロセス*の中で貫通孔の要求事項として耐火シールが施されていることから、技術的な観点から問題ないと判断されたものである。

*当時の当社の施工図面の承認プロセスは、設工認申請書との整合の観点を含め、設備技術課の関係者のレビューを受けたうえで、設備技術課長が承認するとしていた（設工認申請書の「設計及び工事に係るプロセスとその実績又は計画」の「設計」段階のプロセスに準拠）。



設工認図

実際の状態

図1 廃棄物一時貯蔵所と放射線管理棟前室の貫通部の位置について
(詳細は資料2)。

(3) 2次申請 加工棟 洗浄ボックスの材料一覧の記載

洗浄ボックス(1)(2)の材料一覧について、フードボックス（パネル）に対し、使用されている□と使用されていない□の2つの材料が記載されていた。

いずれも使用可能な材料であることから、より耐熱性の高い[]への交換も考慮して、[]または[]の両者を用いることができるとの意図であり、記載に対しては問題ないと判断していた。しかし、実際に用いている材料を特定することができるように記載するべきであるとの判断に至り、記載を改めることとした。具体的には、[]のみの記載とし、[]の記載を削除することとする。

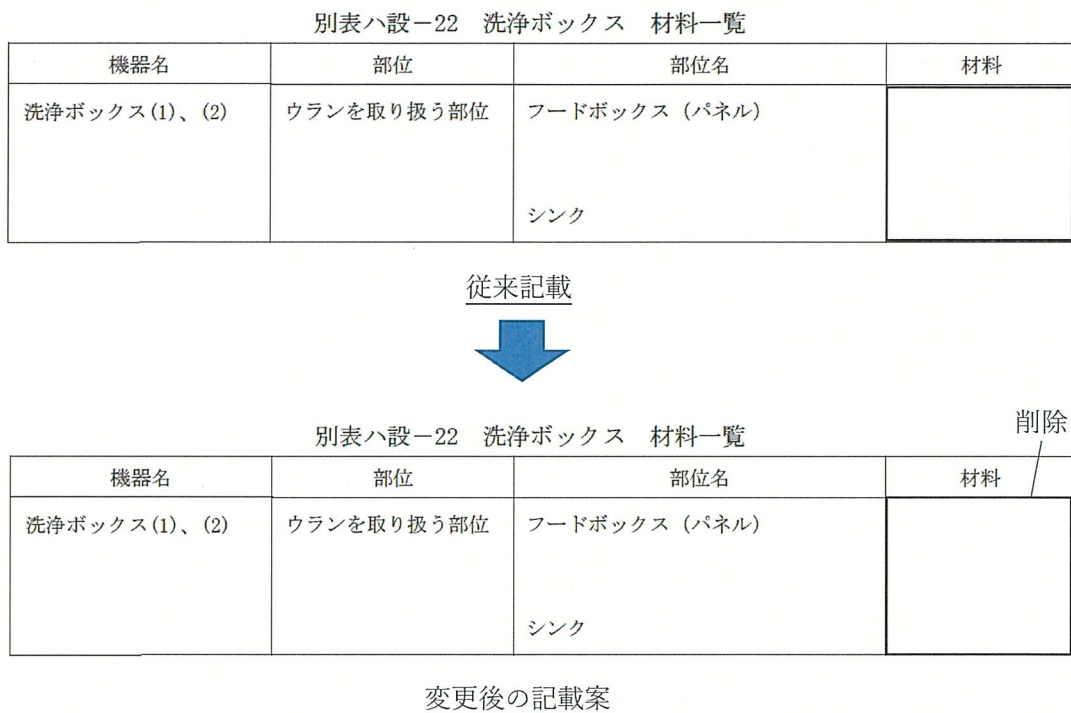


図2 洗浄ボックスの材料一覧

(詳細は資料3)。

(4) 設工認における天井位置の記載について

今回、設工認との相違事例として「加工棟廃液処理施設の堰 (MSR-21-058 参照)」と「壁貫通部 (上記(2) 参照)」の2件が見出されたことを踏まえ、管理総括者の下、全社体制で、再度総点検を実施した(総点検については MSR-21-057:「総点検実施結果と対応について」参照)。

今回は、既に工事がおおむね完了している状態となっているが、建物、設備も含め、設工認上の記載と実際の施工状態を比較し、上記の2例のように、施工・検査を完遂するにあたり、設工認の記載が不明確な点がないかという観点に基づいて確認した。

その結果、設工認の記載を変更して設工認に適合させることが望ましいものが以下のとおり見いだされた。

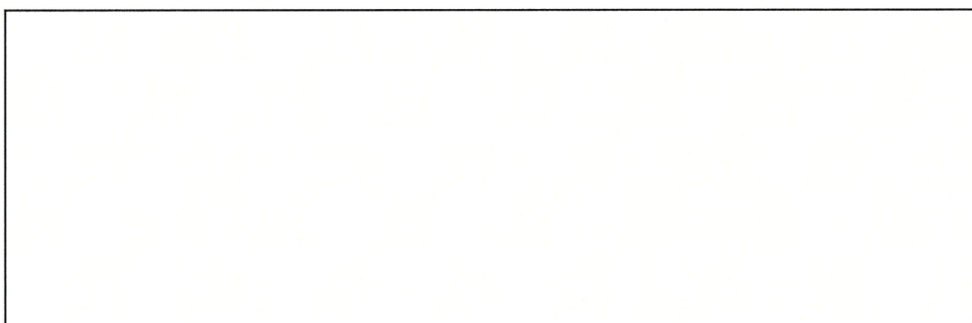
分光分析室 機器配置図（5次申請 p470：図り配-2 工場棟転換工場）について、設工認の図では、天井がダクトの上にあるように記載されているが、実際にはダクトの下側に天井を設置することとしている。これは、工場再開後の設備の保守点検等、各種作業時で局排ダクトと接触の可能性を低減するため、天井裏にダクトを配置し、天井を復旧するものである。

これは、施工図面の承認プロセス*の中で天井の高さを変更しても、要求事項には問題ないと判断されたものである。

*当社の施工図面の承認プロセスは設工認申請書との整合の観点を含め、設備技術課と安全法務課の代表者他のレビューを受けたうえで、設備技術課長が承認としている（設工認申請書の「設計及び工事に係るプロセスとその実績又は計画」の「設計」段階のプロセスに準拠）。

天井は化粧天井であるものの、自動火災報知設備の熱感知器が取り付けられているため、安全機能を有しており、設工認での配置図を変更し、天井をダクトの下に配置するように変更を届け出すこととした。

（詳細は資料4）。



申請書記載図

現状

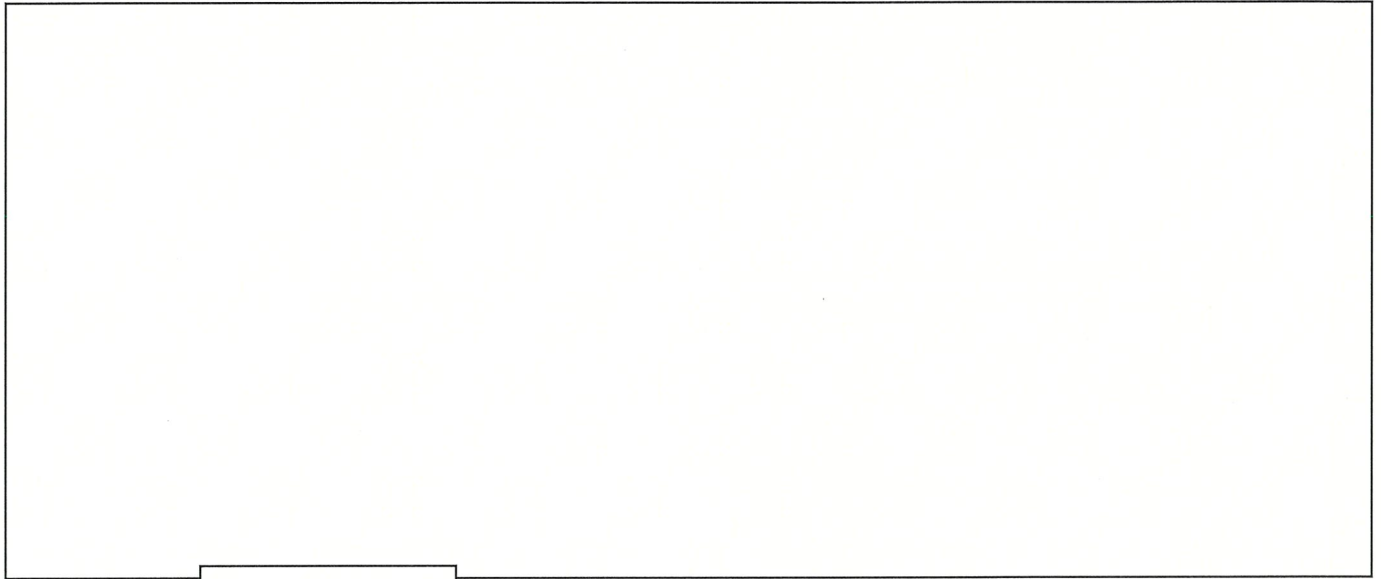
図3 図り配-2 分光分析室 機器配置図

(5) フランス落としについて

鉄扉のフランス落としとは、図4に示す通り、棒状の扉の留め金具のことである。このフランス落としは、枠に設けられた穴（フランス落とし受け穴）に挿入することで、扉を閉めた状態でロックするものである。このフランス落としは既存鉄扉の補強材の一つである。

図4の写真に示すとおり、フランス落とし受け穴に差し込んだ角棒が扉開閉によ

るせん断力を拘束することにより機能を発揮する。したがって、フランス落としの評価上、最も厳しい部分が、フランス落とし受け穴に差し込まれる角棒部分となる。



(4次申請：p626 図イ建-13より抜粋)

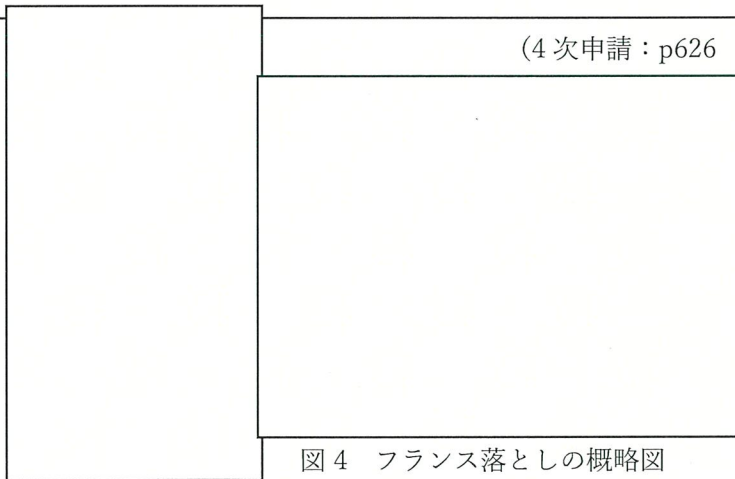


図4 フランス落としの概略図

このフランス落としは、主要な構造材の仕様表の中の に記載されている。この角棒はφ13の丸鋼から先端を削り出して角棒に加工することが設工認の記載からは読み取れない。今回、以下のとおり記載を明確にすることとした。なお、主要な構造材の仕様表に記載することで、加工の状況は読み取れることから、他の部分（p626 図イ建-13ほか添付説明書などの記載）については従来通り角棒の記載とする。

(変更前)

鉄扉補強材の『主要な構造材の仕様表』の記載

(4次申請：p79 表イ建-2 工場棟転換工場 主要な構造材仕様表 (7/7) より抜粋)

| 工事番号及び工事名称 | 区分 | 部材寸法 | 材質 |
|------------|----|-------------------------------|----------------------|
| 1-j.鉄扉補強 | 新設 | 鉄扉補強材 <input type="text"/> | <input type="text"/> |



(変更後)

| 工事番号及び工事名称 | 区分 | 部材寸法 | 材質 |
|------------|----|--|----------------------|
| 1-j.鉄扉補強 | 新設 | 鉄扉補強材 <input type="text"/> <input type="text"/> (<input type="text"/> 丸鋼から先端を 角棒に加工。角棒の寸法許容差は JIS-G-3191 を準用) | <input type="text"/> |

今回の変更は記載の明確化であり、設計自体の変更はなく、適合性への影響はない。

(詳細は資料5)。

3. 今後の対応

資料1～5に示す記載箇所に対しては、これを是正する変更を行う。

今回の変更は記載の適正化の点から記載を変更するものであり、核燃料物質の加工事業に関する規則第三条の二第二項に規定される加工施設の保全上支障のない変更該当するため、法第十六条の二第五項の規定に基づき届け出するものとする。

上記届け出内容についても管理総括者が主催する品質確認委員会において、その届け出内容を確認する。

以上

シャッタのスラット部の材質の明確化について

1. はじめに

シャッタのスラット部の記載については、前回、軽微変更で『主要な構造材の仕様表』の中で記載の適正化を図ったが、今回、さらに明確化する必要があるとの考えに至り、変更内容とその影響について確認した。

2. 軽微変更内容について

シャッタは主にスラットと両サイドのレールで構成されるが、MSR-21-047改訂2の中で、シャッタについては、『主要な構造材の仕様表』に記載する代表部材として、材質はレールの部材、板厚は、スラット部を示すことがわかるように記載を軽微変更した。

しかし、板厚の代表部としては、シャッタのスラットの板厚を記載していることを考慮すると、レール材との区別を明確にするため材質についても記載すべきであるとの考えに至り、設工認の主要な構造材としてシャッタのスラットの材質を記載することとした。

シャッタの材質としてレール部の材質である [] の記載としていたが、上記より板厚と合わせて、スラット材質も明確に記載することとした。

特に、火災に関する添付説明書での説明内容と照合し、シャッタの中でも評価対象となるスラット部の材質を明記することが望ましいとの判断に至った。この経緯について、資料1添付3に示す。

なお、交換ないしは新設の対象となるシャッタのスラット材質は [] ([] : JIS G 3302) である。

『主要な構造材の仕様表』においてシャッタについては、代表部材としてレール部に加え、スラット材も記載することとする。なお、板厚はスラット材のものを記載する。

また、その他のシャッタに関する記載については、板厚と材料が整合するように、板厚が記載されている場合はスラットの材料を記載することとする。

なお、既設シャッタはスラット材についても [] 相当材であるため、記載は従来を踏襲する。表記の変更については表-1、2に示す。

3. 軽微変更に伴う影響について

シャッタの交換ないしは新設の対象となるシャッタのスラット材である [] [] は [] の一種である。交換ないしは新設の対象となるスラット材は [] として既設シャッタのスラット材である [] と同様に、火災評価（内部

火災で耐火時間が1時間、外部火災に対し許容温度 450℃として評価) を実施している。

また、耐竜巻評価上、許容応力度を用いて評価しているが、「シャッター・オーバーヘッドドアの耐風圧強度計算基準」(社団法人 日本シャッター・ドア協会：平成 15 年) に準拠し、スチールのスラット材の F 値 (許容応力) として 235N/mm²を用いて評価を行っている。シャッター材としてこの値を用いて評価していることを事業者として確認している。

以上を含め、適合性評価への影響を表-3 に示す。ここからわかるとおり、今回の記載の明確化に伴う適合性への影響はない。

添付 1、2 に当該箇所の新旧比較を示す。

以上

表1 4次申請 設工認に記載のシャッタに関する記載一覧 (4次申請) (1/3)

| ページ | 図表番号等 | タイトル | 現在の表現 | 軽微変更後の表現 | 備考 |
|-----|---------|--------------------------|---|--|----|
| 74 | 表イ建-2 | 工場棟転換工場 主要な構造材の仕様表(2/7) | 1-k.鉄扉及びシャッタ交換 鋼材：板厚□mm □ (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、シャッタ両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、スラット部を示す) | 1-k.鉄扉及びシャッタ交換 鉄扉鋼板：板厚□mm □ シャッタレール部：□ シャッタスラット部：板厚□mm □ | - |
| 79 | 表イ建-2 | 工場棟転換工場 主要な構造材の仕様表(7/7) | 部材寸法の欄 鋼材：板厚□mm (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、シャッタ両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、スラット部を示す) 材質の欄 □ | 部材寸法の欄 鉄扉鋼板：板厚□mm シャッタレール部：□ シャッタスラット部：板厚□mm 材質の欄 (上記と対応させて記載) □ | - |
| 86 | 表イ建-3 | 工場棟転換工場 建物の各部位の仕様表 (7/7) | 部位の欄 シャッタ(SS-70) 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | 部位の欄 シャッタ(SS-70) 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | - |
| 187 | 表ホ建-2-1 | 工場棟組立工場 主要な構造材の仕様表(2/3) | 鋼材：板厚□mm (□ (鉄扉、シャッタ)) (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、シャッタ両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、スラット部を示す) | 鉄扉鋼板：板厚□mm □ シャッタレール部：□ シャッタスラット部：板厚□mm □ | - |
| 188 | 表ホ建-2-1 | 工場棟組立工場 主要な構造材の仕様表(3/3) | 部材寸法の欄 鋼材：板厚□mm (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、シャッタ両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッタの場合、スラット部を示す) 板厚：□mm 材質の欄 □ □ | 部材寸法の欄 鉄扉鋼板：板厚□mm シャッタレール部：□ シャッタスラット部：板厚□mm 板厚□mm (ダンパ) 材質の欄 (上記と対応させて記載) □ | - |
| 190 | 表ホ建-3 | 工場棟組立工場 建物の各部位の仕様表 (1/3) | 部位の欄 シャッタ (1基) 材質の欄 □ 主な寸法の欄 □ | 部位の欄 シャッタ (1基) 材質の欄 □ 主な寸法の欄 □ | - |
| 190 | 表ホ建-3 | 工場棟組立工場 建物の各部位の仕様表 (1/3) | 部位の欄 シャッタ (6基) 材質の欄 □ 主な寸法の欄 □ | 部位の欄 シャッタ (6基) 材質の欄 □ 主な寸法の欄 □ | - |

表1 4次申請 設工認に記載のシャッターに関する記載一覧 (4次申請) (2/3)

| ページ | 図表番号等 | タイトル | 現在の表現 | 軽微変更後の表現 | 備考 |
|-----|---------|------------------------------|---|---|----|
| 369 | 表ト建-2-3 | 付属建物除染室・分析室 主要な構造材の仕様表 (2/4) | 鋼材：板厚□mm □ (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、スラット部を示す) | 鉄扉鋼板：板厚□mm □ シャッターレール部：□ シャッタースラット部：板厚□mm □ | - |
| 371 | 表ト建-2-3 | 付属建物除染室・分析室 主要な構造材の仕様表 (4/4) | 部材寸法の欄 鋼材：板厚□mm (鋼材は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、鉄扉の場合、扉の板材、シャッターの場合、スラット部を示す) 材質の欄 □ | 鋼板鋼板：板厚□mm シャッターレール部：□ シャッタースラット部：板厚□mm 材質の欄 (上記と対応させて記載) □ | - |
| 379 | 表ト建-3-3 | 付属建物除染室・分析室 建物の各部位の仕様表 (2/3) | 部位の欄 シャッター (内側) 材質の欄 シャッター：□ 主な寸法の欄 シャッター：□ | 部位の欄 シャッター (内側) 材質の欄 シャッター：□ 主な寸法の欄 シャッター：□ | - |
| 625 | 図イ建-12 | 工場棟、放射線管理棟、付属建物 建具表 | 番号の欄 SS-70 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 備考の欄 スラット厚さ□ | 番号の欄 SS-70 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 備考の欄 スラット厚さ□ | - |
| 902 | 表1-3-1 | 建物の各部位の有する安全機能 (転換工場) (7/7) | 部位の欄 シャッター (SS-70) 材質の欄 シャッター：□ 主な寸法の欄 シャッター：□ | 部位の欄 シャッター (SS-70) 材質の欄 シャッター：□ 主な寸法の欄 シャッター：□ | - |
| 910 | 表1-3-3 | 建物の各部位の有する安全機能 (組立工場) (1/2) | 部位の欄 シャッター (1基) 材質の欄 □ 主な寸法 □ | 部位の欄 シャッター (1基) 材質の欄 □ 主な寸法 □ | - |
| 910 | 表1-3-3 | 建物の各部位の有する安全機能 (組立工場) (1/2) | 部位の欄 シャッター (6基) 材質の欄 □ 主な寸法 □ | 部位の欄 シャッター (6基) 材質の欄 □ 主な寸法 □ | - |

表1 4次申請 設工認に記載のシャッタに関する記載一覧 (4次申請) (3/3)

| ページ | 図表番号等 | タイトル | 現在の表現 | 軽微変更後の表現 | 備考 |
|------|----------|--|---|---|----|
| 920 | 表1-3-8 | 建物の各部位の有する安全機能 (除染室・分析室) (1/2) | 部位の欄 シャッタ (内側) 材質の欄 シャッタ: [] 主な寸法の欄 シャッタ: [] | 部位の欄 シャッタ (内側) 材質の欄 シャッタ: [] 主な寸法の欄 シャッタ: [] | - |
| 1034 | 添説建1-4表 | 火災区域の構造毎の耐火時間 (4/6) | 耐火構造物 シャッタ 材質の欄 [] 厚さの欄 []mm 耐火時間の欄 1時間耐火 | 耐火構造物 シャッタ 材質の欄 [] 厚さの欄 []mm 耐火時間の欄 1時間耐火 | - |
| 2077 | 添付説明書-建5 | 外部火災・爆発による損傷防止に関する説明書 | 鉄扉、シャッタ [] | 鉄扉 []、シャッタ [] | - |
| 2208 | 添付説明書-建9 | 航空機落下に伴う火災による損傷防止に関する説明書 | 鉄扉、シャッタについては、[]m厚みのステンレス鋼 (許容温度: 700°C) と比較して、許容温度が低い鋼板 ([]m厚み) を評価した | 鉄扉、シャッタについては、[]m厚みのステンレス鋼 (許容温度: 700°C) と比較して、許容温度が低い鋼板 (鉄扉 []、シャッタ []m厚み) を評価した | - |
| 2218 | 添説建9-16表 | 各航空機落下による対象建物外側鉄扉・シャッタ ([]m厚み) の温度上昇 | 左記のとおり | 各航空機落下による対象建物外側鉄扉 []m厚み)・シャッタ ([]m厚み) の温度上昇 | - |
| 2220 | 添付説明書-建9 | 航空機落下に伴う火災による損傷防止に関する説明書 | 鉄扉・シャッタ ([]m厚み) | 鉄扉 ([]m厚み)・シャッタ ([]m厚み) | - |
| 2222 | 添説建9-21表 | 各航空機落下による対象建物外側鉄扉 注3・シャッタ 注4 ([]m厚み)・ダンパ ([]m厚み) の温度上昇 | 左記のとおり | 各航空機落下による対象建物外側鉄扉 []m厚み) 注3・シャッタ 注4 ([]m厚み)・ダンパ ([]m厚み) の温度上昇 | - |
| 2464 | 表2 | 事業許可との相違点リスト (7/11) | 事業許可との整合性の欄 -鉄扉、シャッタ: 鋼板([]m厚み)を代表として評価 | 事業許可との整合性の欄 -鉄扉: 鋼板 ([]m厚み)、シャッタ: 鋼板 ([]m厚み)を代表として評価 | - |

表2 6次申請 設工認に記載のシャッターに関する記載一覧 (1/3)

| ページ | 図表番号等 | タイトル | 記載表現 | 軽微変更後の表現 | 備考 |
|------|---------|-------------------------------|--|---|----|
| 191 | 表イ建-3-2 | 建物の各部位の仕様表 (工場棟転換工場) (7/7) | 部位の欄 シャッター(SS-70) 材質の欄 シャッター: <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | 部位の欄 シャッター(SS-70) 材質の欄 シャッター: <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | - |
| 1078 | 表ホ建-3 | 建物の各部位の仕様表 (工場棟組立工場) (1/3) | 部位の欄 シャッター (1基) 材質の欄 <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | 部位の欄 シャッター (1基) 材質の欄 <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | - |
| 1078 | 表ホ建-3 | 建物の各部位の仕様表 (工場棟組立工場) (1/3) | 部位の欄 シャッター (6基) 材質の欄 <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | 部位の欄 シャッター (6基) 材質の欄 <input type="text"/> 主な寸法の欄 <input type="text"/> | - |
| 1669 | 表ト建-2-1 | 付属建物第1廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(2/4) | 6-l.シャッター新設 鋼材: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> (鋼材は、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、シャッターのスラット部を示す) | 6-l.シャッター新設 鉄扉鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> シャッターレール部: <input type="text"/> シャッタースラット部: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> | - |
| 1671 | 表ト建-2-1 | 付属建物第1廃棄物処理所 主要な構造材の仕様表(4/4) | 工事番号及び工事名称の欄 6-l.シャッター新設 部材寸法の欄 鋼材: 板厚 <input type="text"/> mm (鋼材は、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、シャッターのスラット部を示す) 材質の欄 <input type="text"/> | 工事番号及び工事名称の欄 6-l.シャッター新設 部材寸法の欄 鉄扉鋼板: 板厚 <input type="text"/> mm シャッターレール部: <input type="text"/> シャッタースラット部: 板厚 <input type="text"/> mm 材質の欄 (上記と対応させて記載) <input type="text"/> | - |
| 1679 | 表ト建-2-4 | 耐震性能及び耐竜巻性能等の適合に関する主要な構造材基本仕様 | 9-c.シャッター交換 鋼材: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> (鋼材は、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、シャッターのスラット部を示す) | 9-c.シャッター交換 シャッターレール部: <input type="text"/> シャッタースラット部: 板厚 <input type="text"/> mm <input type="text"/> | - |
| 1680 | 表ト建-2-4 | 付属建物第3廃棄物倉庫 主要な構造材の仕様表(2/2) | 工事番号及び工事名称の欄 9-c.シャッター更新 部材寸法の欄 鋼材: 板厚 <input type="text"/> mm (鋼材は、シャッター両サイドのレールの部材、板厚は、シャッターのスラット部を示す) 材質の欄 <input type="text"/> | 工事番号及び工事名称の欄 9-c.シャッター更新 部材寸法の欄 シャッターレール部: <input type="text"/> シャッタースラット部: 板厚 <input type="text"/> mm 材質の欄 (上記と対応させて記載) <input type="text"/> | - |

表2 6次申請 設工認に記載のシャッタに関する記載一覧 (2/3)

| ページ | 図表番号等 | タイトル | 記載表現 | 軽微変更後の表現 | 備考 |
|------|---------|------------------------------------|---|---|----|
| 1684 | 表ト建-3-1 | 建物の各部位の仕様表（附属建物第1廃棄物処理所 前室含む）（1/3） | 部位の欄 シャッタ 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | 部位の欄 シャッタ 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | - |
| 1686 | 表ト建-3-1 | 建物の各部位の仕様表（附属建物第1廃棄物処理所 前室含む）（3/3） | 部位の欄 シャッタ 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | 部位の欄 シャッタ 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 □ | - |
| 1693 | 表ト建-3-3 | 建物の各部位の仕様表（附属建物第3廃棄物倉庫）（1/1） | 部位の欄 鉄扉(SD-90) シャッタ(SS-89) 材質の欄 □ 主な寸法の欄 シャッタ：□ | 部位の欄 鉄扉(SD-90) シャッタ(SS-89) 材質の欄 □ 主な寸法の欄（上記と対応させて記載） 鉄扉：□ シャッタ：□ | - |
| 1695 | 表ト建-3-4 | 建物の各部位の仕様表（附属建物除染室・分析室）（2/2） | 部位の欄 シャッタ(内側) 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 シャッタ：□ | 部位の欄 シャッタ(内側) 材質の欄 シャッタ：□ 主な寸法の欄 シャッタ：□ | - |
| 2329 | 図イ建-3-3 | 工場棟、放射線管理棟、附属建物 建具表 | 番号の欄 SS-70 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 備考の欄 スラット厚さ□ | 番号の欄 SS-70 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 備考の欄 スラット厚さ□ | - |
| 2377 | 図ト建-1-1 | 附属建物 第1廃棄物処理所 1階 平面図 | 図面に記載あり シャッタ（新設 □ 厚さ□） | 図面に記載あり シャッタ（新設 □ 厚さ□） | - |
| 2425 | 図ト建-4-4 | 附属建物、第3廃棄物倉庫 鉄扉、シャッタ配置、建具表及び補強概要図 | 番号の欄 SS-89 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 鋼板の板厚の欄 スラット（厚さ□） | 番号の欄 SS-89 材料の欄 □ 寸法の欄 □ 鋼板の板厚の欄 スラット（厚さ□） | - |